

越前市行財政システム改革プラン骨子（案）について

1 行財政システム改革の目的

- (1) 改革の背景 —なぜ改革が必要か— 1
- (2) 基本的な考え方 2
- (3) 目指すべき姿 2

2 行財政システム改革プランについて

- (1) プランの位置付け 4
- (2) 基本目標 —プランが目指すもの— 4
- (3) 取組の体系 5
- (4) 取組期間 5

3 取組のポイント

- (1) 幸福実感市政の推進 6
- (2) 市政新デザイン 6
- (3) 人財集まる、育つ風土づくり 7
- (4) 経営的な行財政運営 8

4 取組の推進方法

- (1) 取組の推進方法 9
- (2) 成果指標 9

1 行財政システム改革の目的

(1) 改革の背景 —なぜ改革が必要か—

- ・越前市では、平成17年10月の合併以降、市行財政構造改革プログラム（I～V）を策定し、歳入の確保や歳出の削減、職員数の削減など健全な行財政基盤の維持に向けた取組を推進してきた。
- ・そして、その間、市の財政を維持しつつ、新庁舎の建設、武生中央公園の再整備、福井国体の開催、北陸新幹線越前たけふ駅周辺整備などの大事業を着実に推進するなど、一定の成果をもたらすことができた。
- ・一方で、現在、人口減少・高齢化社会の到来や住民ニーズの多様化・複雑化などに伴い、より高度な行政運営が求められるようになってきているとともに、団塊の世代の大量退職時代後の職員体制の急激な若返りや職員の働く意識の変化などにより、組織力の低下や働き方の変化が進み、それらへの対応が喫緊の課題となっている。
- ・そして、これらの課題への対応は、従来の「削減」を中心とした行財政改革では解決が難しいものとなっている。
- ・また、社会全体に目を向けると、SDGs、脱炭素化など持続可能な社会を目指す潮流が強まっているほか、コロナ禍によりICT（情報通信技術）が急速に普及するなど、ここ数年において大きな変化が生じている。
- ・こういった市を取り巻く環境や課題に対応するとともに、令和5年3月に策定した市の最上位計画である市総合計画2023の基本理念「幸せを実感できるふるさと～ウェルビーイングの越前市～」に基づき、市民・職員のウェルビーイング（幸福実感）を最大化していくためには、新たな視点に立った行財政改革が必要となっている。

(2) 基本的な考え方

- ① 「量」の改革から「質」の改革へと転換し、市民と職員の「笑顔」を増やす
 - ・旧来の「削減」に主眼を置いた改革ではなく、市民と職員のウェルビーイング（幸福実感）を高めること（＝「市役所」の「質」の向上）を目指す計画とする。
- ② 3つの基本方針

改革にあたっては、次の3つの基本方針に基づいて取組を行う。

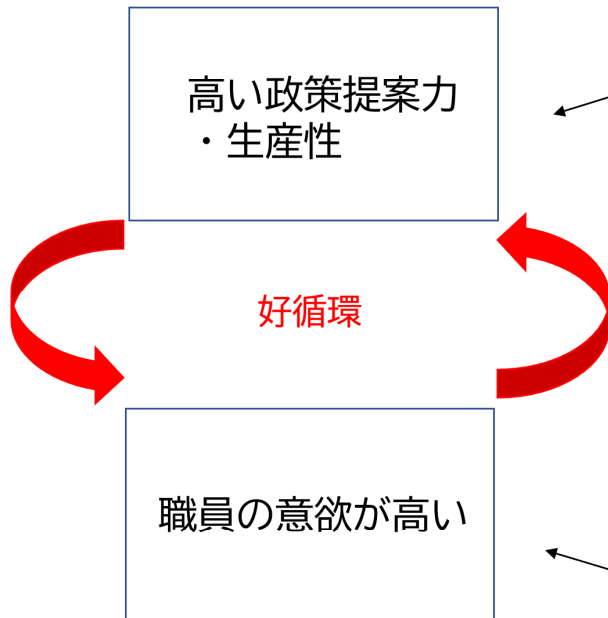
- ・「真の現場主義」・・・職員自らの目と耳で、市民のウェルビーイングを実現するための課題を現場において把握する。
- ・「真の成果主義」・・・何をしたかではなく、何がもたらされたのかを評価する（アウトプット→アウトカム）。
- ・「真の行政改革」・・・ウェルビーイングを実現するために必要ならば、前例に捉われず従来のやり方、行政システムを改め、また障害となる国等の制度の見直しを積極的に提案する。

(3) 目指すべき姿

- ・組織の政策提案力や生産性が高く、また、職員の意欲も高く、それらが相乗効果により好循環をもたらす組織、そういった「越前市役所」を目指す。
- ・より具体的には、次のような組織的背景への転換を目指す。

- | | |
|--|----|
| <ul style="list-style-type: none">・もっとチャレンジできる、チャレンジしたくなる組織風土・職員がどんどん育つ人材育成体制・簡潔で業務が進めやすい内部ルール | など |
|--|----|

目指すべき姿



目指すべき組織的背景

チャレンジしたくなる組織風土

職員がどんどん育つ
人材育成体制

組織目標の職員全体への
浸透、政策ビジョンの共有

定期的な事業の棚卸しと
メリハリのある事業・業務

簡潔で業務が進めやすい
内部ルール

職員のモチベーション向上
による業務改善の加速

病休者や離職者の減少

2 行財政システム改革プランについて

(1) プランの位置付け

- ・これまでの市行財政構造改革プログラム（I～V）を継承しつつ、市の現状から将来の課題までを見据え、新たな視点に立った初めの一步となる取組を推進するための指針となるもの
- ・市総合計画 2023 における「政策 3 3 経営的な行財政」及び「政策 3 4 DX による市政新デザイン」を全庁的に進めるための具体的指針となるもの

(ポイント)

「真の行政改革」の方針の下、組織風土や行政プロセスに切り込んだ改革をゼロベースで重点的に進めることで、さらなる改革を進めるための余力や緊急ではないが将来に向け重要なもの（いわゆる「第2領域」の業務）に取り組むための時間の創出、チャレンジ精神に富んだ組織風土の醸成を図り、将来の更なる行財政改革に繋げていく。

(2) 基本目標 —プランが目指すもの—

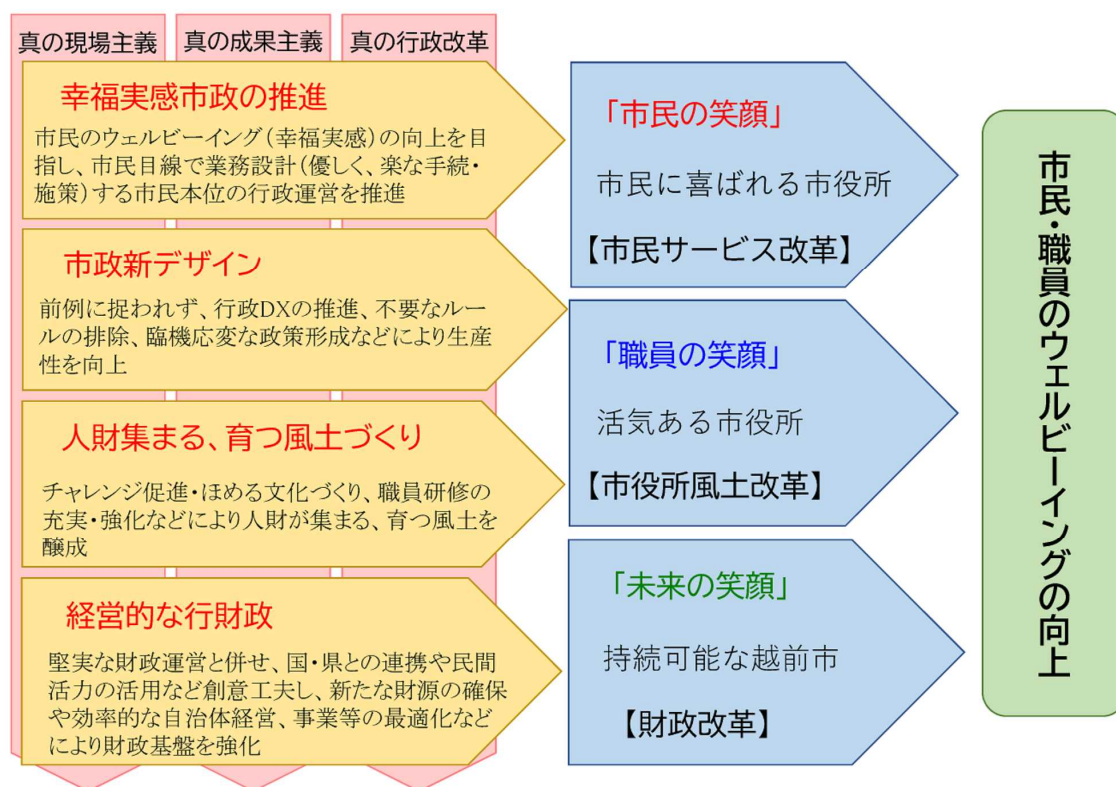
改革にあたっては、次の3つを基本目標として取組を行う。

- ・「市民の笑顔」市民に喜ばれる市役所【市民サービス改革】
- ・「職員の笑顔」活気ある市役所【市役所風土改革】
- ・「未来の笑顔」持続可能な越前市【財政改革】

(3) 取組の体系

- ・ 3つの基本目標である「市民の笑顔」「職員の笑顔」「未来の笑顔」を達成するため、3つの基本方針（真の現場主義、真の成果主義、真の行政改革）の下、4つの取組の柱（幸福実感市政の推進、市政新デザイン、人財集まる、育つ風土づくり、経営的な行財政）により改革を進める。

(取組体系のイメージ)



(4) 取組期間

プランの取組期間は、令和6年度（2024年度）から令和8年度（2026年度）までの3年間とする。

3 取組のポイント

(1) 幸福実感市政の推進

—業務意識改革—

- ・市が提供したいサービスではなく、市民のウェルビーイング（幸福実感）がどうすれば向上するか、市民が望むサービスが何か、市民目線で業務を考える、市民本位の意識を職員に浸透させ、市民サービスの向上を図っていく。

分類	施策の例
手続の楽な市役所	・ICTの活用により窓口手続をもっと簡単に ・オンライン申請、キャッシュレス決済により、いつでも・どこでも窓口 ・情報公開手続によらない簡易な情報提供制度
優しい市役所	・市広報をさらに見やすく ・市民あて通知文について書き方を改善、お役所言葉をなくす
気持ちの良い市役所	・気持ちの良いあいさつで市民をお迎え ・きれいで清潔な市役所で市民をお迎え
市民目線思考の定着	・職員の行動指針(クレド)を作成・継続的に活用し、市民目線での思考を職員に定着させる

(2) 市政新デザイン

—行政システム・プロセス改革—

- ・前例に捉われず、デジタル技術の活用や不要ルールの排除、臨機応変な政策形成などにより、効率的・効果的かつ速やかに行政課題に取り組める組織へと変化させ、市民サービスの向上及び職員の意欲の向上を図っていく。

分類	施策の例
行政DXの推進	・ChatGPTなどのデジタル化技術を活用し、業務を効率化 ・Microsoft365を活用し、業務を効率化

不要ルールの排除・事務プロセスの合理化	<ul style="list-style-type: none"> ・内部ルールの定期的な棚卸し ・庁内での分権改革 ・障害となる制度の国・県への見直し提案 ・業務における前例踏襲意識の排除
臨機応変な政策形成 (アジャイル型政策形成)	<ul style="list-style-type: none"> ・トライ&エラーを認める風土づくり ・モデル事業などを活用した、小さく始めて大きく育てる政策形成
市民参加を高める取組	<ul style="list-style-type: none"> ・DX 技術の活用や実施手続の見直しによる市政への市民参加の向上

(3) 人財集まる、育つ風土づくり — 職場風土改革 —

- ・新しい取組やスキルアップなどへの職員のチャレンジを促進し、その頑張りをほめる・認める文化をつくるとともに、職員採用・職員研修の充実・強化などを通じて、人財が集まる、育つ風土を醸成することで、職員の意欲・能力の向上と職場の活性化を図っていく。

分類	施策の例
チャレンジ促進 ・ほめる文化づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・グッドジョブ賞、公募による異動などを活用し、職員のチャレンジを促進 ・トライ&エラーを認める風土づくり【再掲】
職員採用の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・受験しやすい採用試験の実施 ・大学等への働きかけを強化
職員研修の充実・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信や政策提案力を向上させる研修などの実施 ・OJT での教え方研修の実施 ・将来を見据えた専門職の育成・確保
誰もが働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・性別関係なく、すべての職員が活躍できる人事運用の実施 ・DX技術の活用等により、働き方に制限のある職員にも働きやすい職場づくり ・DX技術の活用・普及、職員の適正配置等により、長時間労働を抑制

(4) 経営的な行財政運営

— 財政改革 —

- ・健全な財政運営に努めつつ、国・県との連携や民間活力の活用など創意工夫し、新たな財源の確保や効率的な自治体経営、事業等の最適化を進めることで、市の財政基盤を強化し、持続可能なまちにしていく。

分類	施策の例
財政運営の健全化	・将来を見通した計画的な財政運営による、歳出の抑制と歳入の確保の推進
新たな財源づくり	・国・県事業と連携し、交付金等を積極的に獲得 ・ふるさと納税の強化(新幹線開業効果、大河ドラマ効果等を生かし、PRを強化)
効率的な自治体経営	・民間活力を生かし、施設の設置・管理のあり方を見直し ・公共施設の長寿命化・最適配置によるコストの削減・平準化
事業の最適化	・利用者のニーズを的確に把握し、成果(アウトカム)を意識したメリハリのある事業設計 ・事業のスクラップ強化

4 取組の推進方法

(1) 取組の推進方法

- ・取組については、所属長等を通じた指導・周知に加え、職員行動指針（クレド）の策定・活用、継続的な職員研修の実施等を通じ、職員全体への浸透を図っていく。
- ・3つの基本目標ごとに定める成果指標に基づき、定期的に取り組の進捗を検証しつつ、必要な取組を実行していく。
- ・毎年度、取組の進捗状況について市行財政システム改革推進委員会（仮称。市行財政構造改革推進委員会から移行。）に報告するとともに、市ホームページ等で公表を行う。
- ・グッドジョブ賞などの取組や各種研修、職員ポータル等を活用し、業務改革、業務改善などの成功事例を職員に広く周知し、庁内に水平展開を図る。
- ・市を取り巻く環境の変化等に合わせた取組を推進するため、随時、新たな取組に着手するとともに、目標達成のために必要がある場合には、機を逃さず、柔軟にプランの見直しを行う。

(2) 成果指標

選定中